

「いいだ未来デザイン 2028」令和元年度戦略の評価についての意見交換の内容（第1班）

いいだ未来デザイン会議委員からのご意見・ご提案	ご意見・ご提案に対する回答
<p><基本目標1 若者が帰ってこられる産業をつくる></p> <p>【沢委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・以前、学輪 IIDA の大学教授と学生を自社で受け入れ、事業解析と展望について報告を聞いたが、理論は分かるが、現場感覚とは遠い印象を受けた。外部からのアカデミックな意見も大切だと思うが、実業人の提言を受けて挑戦していく姿勢が重要と思う。将来の産業づくりのためにも実績のある実業人を未来デザインの推進役に加えてはどうか。 ・就職活動の話になるが飯田市には一流の人材が来ないという話もある。市内のリーディングカンパニーでも応用開発が主で、基本開発ができる技術者は少ない。そういう人材を意図的に誘導していくことも重要だと思う。 ・里山の産業モデルとして、森林を活用したバイオマス産業があり、遠山郷には資源が豊富にある。発電事業で雇用を創出し、若者定住を推進してはどうかと思う。関連して、リニア駅ができる座光寺から遠山郷へのアクセス道路を整備すればいいと思う。 <p>【林委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・都会と同じ職業があっても地方にあっても、若者が都会に出ていくのは、給料条件（収入格差）だけではなく、仕事以外の生活面の楽しさに魅力を感じているからであると思う。産業をつくるだけではなくて、地域帰りたいたいというトータルの魅力づくりが重要だと思う。 ・都会から飯田市に移住してくる人をみて、地元の魅力に気づいて帰ってくるという効果があると思うので、移住者との連携も重要だと思う。 <p>【山科委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本目標1は若者が帰ってこられる産業の創出がテーマで、創出という視点で航空機産業、食品産業への支援が進めてきたが、並行して新しい企業を誘致することも有効だと思う。例えば龍江地区ではインター付近の産業団地の造成に取り組んでいるが、誘致策として助成金や税金優遇措置を充実させ地元企業が入りやすくすることも重要。 	<p>【遠山産業経済部長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・林委員の言うように、産業づくりで都会と田舎の収入格差を埋める取組も進めるが、同様に、若者がニーズもふまえたトータルの地域づくりが必要だと考えている。

【高橋委員】

- ・コロナ禍でライフスタイルの変化や健康志向の高まりがあり、変化をチャンスに変えていくことが必要で、イメージ戦略が重要になってくると思う。小さなものでも良いので、飯田の魅力イメージ化して発信することは観光面だけではなく、企業の目にも留まり産業誘致にも結びつく。

【大西委員】

- ・飯田の強みを「若者」「仕事」「生活」それぞれを切り出して他の地域と張り合うというのは難しいと思う。コロナ以前から、仕事と生活は切り離せないが、今は仕事に重きを置かない人が増えてきていると思う（例えば、会社のためではなく自己実現のために働く意識）。そういう人達にとって飯田は有利な条件をもっている。
- ・最近増えている地方への移住希望は、コロナが怖いから地方に避難するという事よりも、都会の暮らし方に疑問を持っている理由の方が多い。
- ・企業側の視点でも、コロナ対策の分散勤務やテレワークの推進は重要だが、生産性が間違いなく低下している事実もあり、拠点を移そうと考える企業も出てきている。飯田はそういうニーズを先行して抑え、パッケージとして飯田に誘導する戦略が重要になってくる。
- ・都会に出ていくという発想を若者に与えているのは何かを検証することが重要。現状として、若者は都会に進学、就職することに不安を感じているはずで、いかに地元目を見てもらうかの策も有効だと思う。

<基本目標2 飯田市への人の流れをつくる>**【高橋委員】**

- ・南信州観光公社では地域資源を活用する本物体験ツアーを企画している。今はコロナ禍で誘客できないため、地元向けのツアーに切り替えているが、それに関連して、地域の二次交通の解消に結び付ける展開にも取り組んでいる。

【林委員】

- ・進捗状況確認指標の休日滞在人口率だが、参考で掲載している市町村について数値どおりの実態かどうかは疑問がある。自分が実際に行った地域でも、軽井沢以外は数値上でもむしろ飯田より厳しい状況があり、この数値だけで目標を評価することは難しいと思う。
- ・交流人口の増加を考えるのであれば、リニア駅と合わせてIR（統合型リゾート）

【塚平総合政策部長】

- ・大西先生の話に補足となるが、市長が高校で授業を行うことがあり、市長が高校生に「将来飯田から出ていくか」、「飯田に住み続けるか」を聞いているが、以前は出ていく方が多かったが、今は逆転し、「飯田に住みたい」という意見が多くなっている。その成果はまだ数値に表れていないが、今後につながってくると思われる。

【遠山産業経済部長】

- ・DMOとして観光公社の役割は本当に重要で、コロナの影響は厳しいが、この地域の真のファンづくりに取り組み、関係人口や交流をさらに増やし、移住定住につなげていきたいと思う。

【遠山産業経済部長】

- ・滞在人口率は説明書きにあるように、「ドコモのモバイル空間統計」を根拠とした特定のデータであり、この数値だけで評価するのではなく、他の実績やデータ分析も今後検討したいと思う。
- ・IRの提案については、現時点では市に考えはないが、沢委員の意見もあった

ト)を導入するような独創的な政策を打ち出しても良いと思う。それにより市民の市政への関心が高まる効果もある。

【沢委員】

- ・丘の上りんご並木以外の名所となる新たなメインストリートと国際会議ができるような施設を建設して、全国や世界との交流拠点を作り、人の流れと交流を生み出せるといいと思う。
- ・併せて、例えば国際ホテルを作り、通訳ができるホテルマン募集が始まり、若者のための新しい職種や職場づくりに繋がっていくような発想も必要と思う。

【山科委員】

- ・移住定住の様々な取組がされており、3年間で約200人の移住があったことは大きな実績であり、取組の熱意が伝わっているからこそその成果だと思う。一方で転出者がどこに転出しているかなどの分析も必要だと思う。

【大西委員】

- ・基本目標の共通点として「地域の担い手をつくる(増やす)」というテーマがあると思う。その意味で今後、飯田が大切にすべきなのは、地域に貢献する人の流れだと思う。具体的には目的意識を持ってくる人、地域の価値を評価してくれる人で、この2種類の人が地域の担い手につながっていく。それは飯田ならできると思う。

<基本目標12 リニア時代を支える都市基盤を整備する>

【高橋委員】

- ・リニア開業延期の課題もあり難しいが、開発事業と関連した新しいニュータウン構想や民間の新たな事業の設立などが、効果的に進められる統制が必要になってきていると思う。

が、他の自治体にはない斬新な発想が大切という意図は分かるが、実現性も重要と考えている

【塚平総合政策部長】

- ・林委員や沢委員の言われた斬新性や発想が重要ということはご提言として伺うが、飯田市がこれまで観光施策で地域資源の活用した本物志向を重視して築き上げてきたこともご理解をいただきたい。

【塚平総合政策部長】

- ・完璧に把握はできないが、リーサス等により転出先等はある程度の把握はできている。また、事務局から情報提供をさせていただく。

【細田リニア推進部長】

- ・委員の言う通り、駅だけで新しい時代を考えるのではなく、地域全体の将来像をふまえ、事業規模などに留意しながら進めていきたいと思う。
- ・また、移転される方の住宅地整備についても、市独自の環境策などを付与するなど、観光客からみても魅力的なエリアモデルを推進していきたいと思う。

「いいだ未来デザイン 2028」令和元年度戦略の評価についての意見交換の内容（第2班）

いいだ未来デザイン会議委員からのご意見・ご提案	ご意見・ご提案に対する回答
<p>＜基本目標3 地育力が支える学び合いで、生きる力をもち、心豊かな人材を育む＞</p> <p>【前島委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> 7月の豪雨の際の国道通行止めなど、土砂崩れ等の影響で上村小は3日間の臨時休校、小学校と市公民館に分かれての分散登校が1日あったが、タブレット端末での学習環境が整っているため、災害への対応ができたと考えている。学校に行けなくても学習環境を確保することが大切だと思う。 <p>【三浦委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> 前回の議論にもあったが、コロナ禍の中の教育ということで、飯田市ではタブレット端末の整備について2023年までとしていたものを今年の11月までに大きく前倒した。必要なものを即座に対応するという姿勢は非常に素晴らしいと思う。飯田のような自然豊かな地域で、ICTを活用して様々な教育が受けられるということは魅力的だと思うので、教育移住という観点からも地域内外へPRするべきだと思う。 <p>【永井委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> このコロナ禍の中で学校が休校ということもあり、地域の図書館の来館者や図書貸出数が増加したということで非常によかったと思う。学校生活の中では図書館が身近な存在であると思うので、学校の図書館の充実にも力を入れていただきたい。図書館の先生がどうしても手薄になりがちで、PTAや地域の方に読み聞かせをしてもらう取組を行っている学校もある。家庭でのコミュニケーションが増えるという効果もあるので、そういった取組が広がればと思う。 タブレット端末が整備されることで、子どもも保護者も本から遠ざかってしまうのではないかと心配している。タブレット端末の整備も重要ではあるが、本に親しむような取組を引き続きお願いしたい。 <p>【西村委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> 図書館の開館時間が短いと感じている。仕事帰りに寄りたい人もいると思うので、開館時間を長くできないかと思う。 	<p>【今村教育次長】</p> <ul style="list-style-type: none"> 上村小ではオンライン授業に取り組んでいるので、災害が起きてもこのように臨機応変な対応ができたと思う。引き続き教育現場の皆さんと知恵を出し合っていきたい。 <p>【今村教育次長】</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校図書館の担当の皆さんと懇談をさせてもらい、図書館の現状をお聞きしながら、少しでも小中学生が使いやすいように、図書館に行きたいと思えるように一緒に考えさせていただいている。 この地域は市民の皆さんが読書の文化を広げようと、子どもたちだけでなく、障害を持った方に対しても、幅広く本の読み聞かせ活動を行っている。そういった活動の拠点としても図書館の役割は重要と考えている。 <p>【今村教育次長】</p> <ul style="list-style-type: none"> 毎週木曜日は開館時間を長くして、そこでの利用実態も把握しながら判断をしている。郷土資料を充実させるなど図書館の質を向上させるために努めて

【前島委員】

- ・図書館は貸出冊数の大小がすべてではないと思うが、実績として求められるので、どうしても貸し出しを増やさなければという感覚をもってしまう。
- ・地域には運転ができない方もいるので、移動図書館のようなものも検討しているが実現には至っていない。

【中田委員】

- ・これからタブレット端末等が普及してくると、図書館に行かなくても本を読める環境ができ、図書館から遠くても本を読めるようになるのではと思う。今後は図書館という場をどう活用するかということを考えるのが重要であると思う。

【永井委員】

- ・絵本から本へ移行するときに子どもたちの本離れが起きやすい。そこでの確かな本を渡せば子どもたちも本に親しみ続けられる。子どもが的確な本を選ぶことは難しいので、図書館の職員や本に詳しい大人が本を選ぶ手助けをすることでその子どもの人生が変わってくることもあると思う。図書館は大切であると考えている。

【西村委員】

- ・外国への語学留学やホームステイといった取組への支援はできないか。

【永井委員】

- ・キャリア教育が継続して行われているが、先生や保護者の考え方が定型化していて今の多様な考え方と合っていないように思う。
- ・市民大学で飯田下伊那出身の方を招きながら自然や歴史について学んでいるが、専門家の話は本当におもしろいと感じる。子どもたちもそのような話を聞くと、いろいろな考え方ができ夢が広がるのではないかと思う。

いる。

【今村教育次長】

- ・読書の文化を広げるという面では、特に地区の分館では図書館の職員だけでは限界があると思うので、公民館も含めて一緒に考えていただくことが大切だと感じている。

【今村教育次長】

- ・今後は確かにタブレット端末を使うことで本を読むことが可能になり、読む本の選択肢が増えると思う。一方で、例えば子どもにどのような本がよいか悩んでいる保護者が多いので、そういった悩みに対応できるのが図書館の一つの役割であり、力を入れている部分である。

【今村教育次長】

- ・L G 飯田教育の取組の中で、小学生は海（伊勢市）と山（飯田市）の交流、中学生は三遠南信の交流、高校生はカンボジアスタディツアーを実施している。特にカンボジアスタディツアーは、ただ外国へ行って学ぶだけではなく、まずはこの地域のことを学び、現地へ行った後さらに事後学習を行い、発表会まで一連の過程を重視した取組を行っている。

【今村教育次長】

- ・教育委員会でも同じような問題意識を感じており、ふるさと体験やキャリア教育を質的に見直しているところである。
- ・キャリア教育の目的を端的に言えば、ふるさとを継ぐ人材を育てることであり、ふるさとの良さを学ぶためには、輝いている大人の姿を見せることが大きいと思う。学校教育に効果的に組み込みながら子どもたちの学びを深めていきたいと考えている。

【中田委員】

- ・まずは大人が地元の良さを発見し、地元を好きになることが大切だと思う。親だけではなく、身近にいる大人に地域の魅力を語っていただくと子どもも実感を持てる気がする。そのためには大人自身が日頃から飯田の良さを感じることが必要である。

【西村委員】

- ・この地域には大学がなく、核となる産業がないので、地元へ愛着を持っていても大学進学のため都会に出てそのまま地元へ帰ってこないという話をよく聞く。外から飯田を見るのもいいと思うが、人口が減っていく現状を心配している。

【中田委員】

- ・地方都市の人口減少は、飯田だけではなく全国的な課題だと認識している。
- ・地元の人はこの地域には何もないと言うが、東京に住んでいると飯田市の公民館活動や人形劇はとても評価が高い。
- ・文化活動でも一つのものに特化していないからこそ、いろいろな受け皿があるというのが強みだと思う。このコロナ禍で産業にしても文化活動にしても一つのものに特化している地域は大打撃を受けている。特定のものがある地域はわかりやすくPRもしやすいが、特にコロナ禍の中で本当にそれがいいのかと思っている。
- ・飯田にはいろいろなものがあるという良さを子どもたちにも感じてもらいたいと思う。

【中田委員】

- ・学輪 IIDA は本当に素晴らしい仕組みであると思う。大学がないからこそ成り立つ仕組みであり、飯田という地域がフィールドでそこに全国から学びに来るのは誇りに思えるところだと思う。

【前島委員】

- ・高校を卒業するまでに社会人として一人前になってもらいたいという願いを持っている。そのために消費者教育や金融教育みたいなものを高校までに取り入れていただきたいと思う。
- ・上村でも高校生が地域の文化祭に関わって、卒業後は地域のために働きたいと言ってくれており、大変心強いと思う。こういった教育を続けていってほしい。

【今村教育次長】

- ・すごく大事な視点であると思う。大人が地域を誇りに思い、自分の言葉で表現できれば、子どももその姿を見て地域への愛着が深まるのではと思う。

【今村教育次長】

- ・中田委員の意見に同感である。
- ・大学については、飯田には学輪 IIDA の取組がある。大学に行けば一つの学校に通うことになるが、飯田にいれば 60 以上の大学とつながり学べる仕組みができてきている。働きながら学べるというのは非常に魅力的だと思う。

【今村教育次長】

- ・大事な指摘であると思う。社会人としてどのような力があるか考えたときに、教科教育に紐づけた学びを進める必要があると思う。高校での地域人教育を通して、学んだ学力を社会に出て生かせる力に変えるようになることを願っている。

【中田委員】

- ・伊勢市との交流の記載があるが、わたしも小学校時代に参加しており、今でも続いていることに驚いている。継続して発展していることを感慨深く思う。伊勢市での出来事や飯田の他校との交流など今でも記憶に残っている。

<基本目標4 自然と歴史を守りいかし伝え、新たな文化をつくりだす>**【西村委員】**

- ・この地域の子どもたちが美術博物館や満蒙開拓平和記念館を訪れるための支援をしていただいているとのことだが、北信や東信の小中学生が社会見学等で訪れていただくよう地区外への働きかけにも力を入れていただきたい。
- ・また、この地域の小学生が社会見学をするときには松本城や善光寺が定番だが、長野県立歴史館をコースに入れていただくことをお勧めしたい。

【三浦委員】

- ・飯田ケーブルテレビ等の媒体で美術博物館や芸術・文化を取り上げていただく、市民の皆さんがもっと魅力を知れたり、学校の先生たちが教材として活用したりする機会になる。現在、コロナ禍の中で自粛が続いているので、媒体に触れる時間が増えている。今その媒体を活用して魅力を伝えることができれば、自粛が空けたときに実際に訪れる行動につながると思う。
- ・地元出身の学生も地元のことをすべて知っているわけではないので、生きた学習教材で学ぶことにより地元への愛着が深まることにつながる。

【中田委員】

- ・美術博物館や川本喜八郎人形美術館を訪れたことがあるが、自分で見て回るだけでは一過性で終わってしまう。具体的な内容や情報等がインターネットに出ていると実際に足を運んだ時にもっと味わい深くなるのではないかと思う。

【永井委員】

- ・コロナ禍の中で事業ができていない状況が続いており、数値的な目標はあまり意味がないように思う。内容を見ていくことが大切である。
- ・国や県の指導に従うことも大切だと思うが、コロナの対策を取りながら各地区の実情に応じて事業を進めてもいいのではないかとも思う。

【今村教育次長】

- ・ご提言として受け止めさせていただく。現在の広報だけでは魅力を十分に伝えきれていないと思うので、見た人がおもしろいと思ってもらえるような広報を考えていきたい。

【今村教育次長】

- ・指標については、活動量を表すものはこのような状況の中、事業ができないので意味をなさないが、その活動をどのような目的で行っているか明確であれば検証は可能だと思う。

【三浦委員】

- ・コロナ禍にあって学力の指標や外国語教育の指標、体力の指標は今年どうなるかきちんと見ること、今後に大いに活かされると思う。
- ・美術博物館や人形館の来館者数の指標は人数の目標ではなく、内容がわかるような指標を検討してはどうかと思う。社会教育の活動がきちんと評価でき、市民の皆さんにもわかりやすい指標であればと思う。

【中田委員】

- ・コミュニティスクールの取組はこのコロナ禍の中で機能しているのではと思う。飯田のこれまでの取組がこのような状況下で実を結んでいると実感している。

【今村教育次長】

- ・今の指標は来館者数となっているが、本当は内容を評価していただく必要があると思っている。検討をしていきたい。

「いいだ未来デザイン 2028」令和元年度戦略の評価についての意見交換の内容（第3班）

いいだ未来デザイン会議委員からのご意見・ご提案	ご意見・ご提案に対する回答
<p><基本目標5 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる></p> <p>【大沢委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉協議会が市の委託事業として実施している「結婚相談」に関する取組は、もともと若い人同士をターゲットにしたものではなく、独居対策を目的とした事業である。しかしながら若者への婚活推進は当然ながらやっていかなければいけないことである。 ・市が始めた高校生に対するライフデザイン支援事業に期待していたが、実際の現場の声をお聞きしたい。 ・飯田女子高校では、地元の職業を説明する機会があったとお聞きしている。また、緑ヶ丘中学校や松川中学校では、地元の企業を招いて職業訓練的な授業をやられたとお聞きした。風越高校や飯田高校ではあまり聞こえてこないが、こうした機会は地元企業の見方が変わるチャンスであり、地元定着率につながることもある。イベントではなく基本的な教育の部分に取り込むことが必要である。 <p>【松村委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・核家族化が進むなか、最近では若い人が早くから家を持つ傾向がある。実際に飯田市から高森町、豊丘村、喬木村へ引っ越す事例を耳にする。市外への転出理由を聞くと移住に関する助成制度や子育て支援策が充実しているからとのことであった。つどいの広場のお母さんたちから飯田市での子育ての良さを沢山お聞きするものの、若い人は経済的なこともあり目先の良い条件の所へ行くのが現状である。 ・若者の転出という視点では、最近では部活の問題が影響し、高校進学の時点で県外の強豪校や県内の私立高校へ行かれるケースが当たり前のようになってきている。もはや大学の時点で戻ってきてと言っている場合ではない。 <p>【竹内委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同居したくない若い人たちが増えており、早く家を建ててしまうケースが多い。よく聞くのが、学生時代から付き合っている流れで、同居など考えずにそのまま結婚し、安く建てられる場所に家を持つ。特に今は保証人なしで借金できる 	<p>【清水健康福祉部長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子育ての希望がかなう環境をつくる必要がある。当市は合計特殊出生率は高い数値であるが、出生数はじめ母数そのものが相当数減少している。他市と比較し子育て支援策は充実している方ではあるが、抜本的な解決策とはなっていない。 ・ライフデザインの支援については、改まってこういった話を聞いたことがなかったもので、良い機会になったとの感想をいただいている。 ・地元企業とのマッチングは産業経済部で取り組んでいるが、ライフプラン支援事業の視点も積極的に取り入れていきたい。

こともあり気軽に家が建つ。こうしたことから住む場所を選択する際のポイントとなる働く場所は特に重要な要素となる。飯田で安定して働いている人と結婚するといった形をつくるには、やはり産業基盤がしっかりしていることが大事。飯田はもっとアピールしても良いと思う。

<基本目標6 「市民総健康」と「生涯現役」をめざす>

【大沢委員】

- ・保健師のやっていることがあまり見えてこない。若い人へのアプローチが少ないのではないか。出前講座という話も聞くがもっと積極的に接点を持たないとダメ。介護予防は30歳40歳代が大事でここでの意識改革がキモになる。
- ・企業に対するアプローチをもっとすべき。
- ・いいだ未来デザイン2028策定時に参加した会議の中で、これからの時代は、旧世代とは全く異なる価値観を持った若者「Z世代」が社会人になるといった話題を思い出した。これまでの事が常識であるとの認識を改め受け入れなければいけない時代がやってくる。清水部長の言われる核家族化の是正も難しい世の中になる。

【松村委員】

- ・コロナの影響からか高校生の思いがけない妊娠が増えているとの話を聞いた。

【竹内委員】

- ・妊娠や出産については、今次のコロナ禍において相当意識が高まっていると思う。いつまで待たばいいのか先が見えない状況に不安感があるのではないか。

【大沢委員】

- ・周辺町村で人口のパイの奪い合いをしても意味がない。外から、都会から引っ張り込むような強烈的なアプローチが今こそ必要である。

【清水健康福祉部長】

- ・現状で介護保険料が高いことも課題ではあるが、率直に若い人が健康でない特に「食」に関して乱れており、子ども世代にも影響が出ていることに対し危機的状況を感じている。若い人に「食事」、「運動」、「検診」といった基礎的なアプローチが必要。もっと力を入れなければいけない。
- ・特に食育をもっとやらないと、その人の問題だけでなく取り返しのつかないことになる。
- ・企業には別で健康管理をする仕組みがある。

【田中危機管理室長】

- ・自宅でもそうだが、子どもが朝食を食べないことを親が当たり前のように許している状況がある。

【清水健康福祉部長】

- ・同居の意識が薄く核家族化が進行する今の風潮は、決して良い状態ではない。地域での支え合いとっているが、その前に家族の支え合いが必要。ここを強化し、社会の構造を変えていかないと地域がもたない

【松村委員】

- ・若い人達の意識を高めるには、健康の「見える化」が効果的ではないか。例えば健康教室の際に実際に骨密度検査をやってみるとか。

【竹内委員】

- ・弊社（飯田信用金庫）では、健康診断をはじめ社員に対する健康管理に関してはしっかり行われている。ただし、やはり若い社員の意識をどうやって高めるかが課題である。特に食や運動による健康ブームも要因のひとつであるが、健康維持・増進には、お金がかかる印象が強い。

<基本目標7 共に支え合い、自ら行動する地域福祉を充実させる>**【大沢委員】**

- ・地域福祉というが、実は意外と難しい問題。それよりは、もう少しコアな部分を意識することが必要であると思う。まずは案外見てない自分の家、すなわち家族での助け合いや支え合いを今一度見つめ直すことが大事。改めてどうあるべきか、それをみんなで考えることが必要なのではないか。

【松村委員】

- ・現在、子育てプランの見直しを行っているが、この計画の中にも家族の支えや助け合いといった標記がこれまで以上に増えており、家庭内での取組が重視されていることを実感している。

【大沢委員】

- ・子育てと高齢者介護はどちらも家庭における取組が根底にある。やはり家族が重要。

【松村委員】

- ・飯田西中学校の三年生が地域福祉活動として地区内の草とりや掃除をやったという話を聞いた。この活動の目的は、実はコミュニケーション能力を養うといった意図があり、この取組により自分がお邪魔した家の方とは、何かしらつながりができる。例えば災害が起きた時には、この家の住人の様子はわかっており、普通に気にかけるようになる。こうした人とのつながり、かかわるきっかけをこうした学校活動によって作っている。若い世代がどうやってつながりを作っていくのか心配である。

【清水健康福祉部長】

- ・地域福祉課題検討会も本当は地域の話し合いの中で、みんなで考えてヒントを得たり関係性を構築できる場にしていきたいと思っているが、実態は個別の話になってしまう

【大沢委員】

- ・そういう意味では、高齢者は誰かに頼れるし聞くこともできる。周りに聞ける状態を作ること、新たに違う人との関係も生まれる。大変基本的なことではあるが、積極的に顔をつないでいくことが、一番大事なこと。
- ・個別支援になってしまう人は誰かに相談できる環境がない。ふれあいサロンも単にお茶を飲んでいるだけではなく、聞ける人をつくり関係性を構築する場になる。

<基本目標 11 災害に備え、社会基盤を強化し、防災意識を高める>**【松村委員】**

- ・民生委員の会議で防災訓練時の安否確認の方法について議論がされ、現状では組合に入っている人のみ確認しているとのこと。組合加入者が善で未加入者は困った人扱いをしている風潮がある。こうした考え方は改めないといけないし、何とかして組合の良さを分かってもらいたい。

【竹内委員】

- ・組合に入っているとやはり安心感がある。何かあったときに助けてくれる。

【大沢委員】

- ・地元の防災訓練ではアパートに住んでいる人の把握まではできていないが、組合未加入者であっても、生活していく上で必要なことは一緒にやっていかなければいけない。

【松村委員】

- ・日頃から近所の人の顔がわかる関係性を構築することが大事。

【大沢委員】

- ・支え合いマップは年に一度は活用すると決めて、緩いしほりをかけて意図的にやっていくことが必要である。

【田中危機管理室長】

- ・組合加入の有無に関係なく、防災台帳によって地区民全てを把握している地区もある。市としては地区ごとの実態は把握していない。

【田中危機管理室長】

- ・実際に隣近所のつながりが強い地域ほど人的被害が少ないといった事例があった。普段から繋がっていることが重要で、例えばあそこの家には足腰の弱い年寄りがいるといった情報をみんなで共有しておくことが大事。

【清水健康福祉部長】

- ・住民支え合いマップは個人情報ではあるが、活用することが目的である。

【田中危機管理室長】

- ・7月の豪雨は、これまでに経験したことのない状況もあり、災害対策本部も人命優先の意識から避難情報等を早めかつ多めに出してしまった。結果論ではあるが、地域の負担感も招いてしまった。

「いいだ未来デザイン 2028」令和元年度戦略の評価についての意見交換の内容（第4班）

いいだ未来デザイン会議委員からのご意見・ご提案	ご意見・ご提案に対する回答
<p><基本目標8 新時代に向けたこれからの地域経営の仕組みをつくる></p> <p>【下平委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・空き家活用は重要だと思うがニーズをつなげる難しさがある。民間の不動産業者との連携が重要だと思う。 <p>【竹村委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・空き家と古民家の区分と、再生と解体の捉え方を分かりやすく示してほしい。 <p>【下平委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・空き家は無くしていきたいが、だからと言って入居するのは誰でも良い訳ではなく、地域側には地区外からの移住者に対する潜在的な不安があると思うので、相互に理解できるような対策が必要であると思う。 <p>【本田委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・空き家対策も大切であるが、例えば飯田への移住者は外国人もいるし、田舎暮らしに対する独自の理想を持って来る人もいると思う。そういう多様な文化や価値観（考え方）を地域側も受け入れていく意識を高めることが大切で、それができる人間性やコミュニティを飯田の魅力として発信していくことが重要と思う。 <p>【下平委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在の地域おこし協力隊の取組に期待している。 	<p>【松下市民協働環境部長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宅建事業者がホームページ等で情報発信をしているが、移住定住者の明確なニーズのひとつは低廉な価格で賃貸できる物件であり、宅建事業者の取り扱う物件に見つからないケースもある。移住者のニーズに合う物件を地域と一緒に発掘し、空き家バンクに掲載して移住定住政策につなげている。なお、空き家バンクの運営に関して、宅建事業者の方にも空き家バンク委員会には参画していただいてご理解をいただいている。 <p>【松下市民協働環境部長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・空き家というのは古民家を含めたものとして定義している。空き家には安全面で解体した方が良いものがあるため、解体と活用は別の事業として捉えている。 <p>【松下市民協働環境部長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特に中山間地域のような小規模地域においては、地域に馴染めない移住者が入ることがコミュニティに大きな影響を与えるため、まずは地縁から探していただいたり、移住の希望があった場合には市の職員と地元の方と一緒に事前に顔合わせをしてからお互いの合意で決定できるような仕組みと対策を講じている。 <p>【松下市民協働環境部長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・移住定住の話であるが、昨年から結いターン移住定住推進室という新しい室を設立して取組を進めてきた。昨年の移住定住者（114人）の内8割が20~40代で、さらに6割が家族移住である。若い世代が地方で生きがいもてる生活を求めるニーズが増えている。本田委員の言うとおり、そういったニーズの応える地域であることは重要と考えている。 <p>【松下市民協働環境部長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・協力隊は3年任期で、20~30代の若者が地域の中に入り込んで、熱心な取組

をしている。任期満了後も是非地域に残ってほしいと思っている。

【本田委員】

- ・若者移住とは違う考え方であるが、都会の高齢者が飯田に住み、都会で働く子どもや家族が飯田に通うというライフスタイルもあると思う。

【福岡委員】

- ・本田委員の意見に関連して、今は定年しても元気な方は多いと思う。そういう方達が活躍できる場が地域にあることは大切だと思う。

【下平委員】

- ・竜丘地区では竹を活用する鷲龍峡プロジェクトに取り組んでいる。地域経済を潤し、景観保全にもつながる地域経営を目指したいと活動に取り組んでいる。そのために行政との良いパートナーシップが重要と考えている。

【本田委員】

- ・目標に地域経営という言葉はあるが、民間と行政の考える「経営」という概念の違いは整理した方がよいと思う。補助金ありき経営ではなく、仮に資金が枯渇しても知恵と体力と汗を流して、気持ちの良い疲労感を得られるまちづくりの魅力を再認識することが地域の経営という考え方で大切だと思う。

【石神委員】

- ・地方への移住者はこれからもっと増えていくが二拠点居住など様々な移住パターンを想定することが求められる。
- ・移住する若い世代が生活に求めるニーズを把握することも大切で、育ってきた都会の関係性を継続する方が居心地が良いという移住者の心理もあると思う。相手にあった対応が必要になる。
- ・「田舎に還ろう」という言葉だが、「田舎」という言葉がマイナスな印象にとられる場合もある。例えば「田園回帰」とか「林間回帰」などターゲットにあったキャッチフレーズで打ち出していくことも重要だと思う。

<基本目標9 個性を尊重し、多様な価値感を認めながら、交流する>

【下平委員】

- ・活動指標にある市民活動団体には社会教育団体が含まれていないということだが、社会教育団体の活動をいかにまちづくりに結びつけていくかという視点も

【松下市民協働環境部長】

- ・石神委員が言うとおおり、相手の希望に応じてご案内することは必要と考えている。

大切だと思う。

【福岡委員】

- ・飯田に就農移住した若い夫婦の知り合いがいる。移住先を農地バンクで検索した結果、飯田につながり理想の物件や土地がある移住先と考えようだ。現在ではすっかり地域に溶け込んで生活ができている。

【竹村委員】

- ・まちづくり全般に関わることだが、移住者が地域を活性化する事例は実際にたくさんあると思う。地域を新しい個性や価値観を入れることで活性化していくということは、これからも大切なことであると思う。

【森下委員】

- ・嫁に行った土地では子どもをきっかけに地域とのつながりを深めるということはあると思う。自分も PTA から始まりまちづくり委員会や市民活動で地域に関わりを持ち、いろんなことを学んでこられた。そういう楽しさを飯田のコミュニティは持っていると思う。

【本田委員】

- ・飯田の地域自治は公民館活動に始まり、全地区が基本構想を策定するなど、全国的に注目されている仕組みや取組はあるが、自治の自立性をより高めていこうという姿勢が重要だと思う。
- ・活動指標の市役所の係長以上職責の女性率の目標は、市民からすると分かりにくい。例えば、市役所は女性採用 50%以上を目指すとして、女性の働きやすい地域を目指していく考え方を打ち出してもよいと思う。

<基本目標 10 豊かな自然と調和し、低炭素な暮らしを送る>

【本田委員】

- ・活動指標も大切であるが、他の自治体と比較して飯田市の現状が分かることも大切。

【松下市民協働環境部長】

- ・ごみの分別を例とすると、婦人会や女性活動が活発であったため、スムーズに仕組みが導入できたと思う。再生可能エネルギーに関しても、民間事業者がいち早く立地し売電事業に取り組むことができたし、事業者が ISO に主体的に取り組んでいる。他地域には取組が民間で実現できていることから環境意識は高いと評価できる。

【下平委員】

- ・意識を高めるために、改めて環境家計簿を普及するなどの意識啓発は今後も重要だと思う。

【竹村委員】

- ・コロナ禍の外出自粛により、生み出された時間を使って自宅の畑を耕すなども環境取組であると思う。そういう取組を推進していく考え方もあると思う。

【本田委員】

- ・経済が盛んになることが炭素排出の増加につながるという前提で、空気や水などをきれいな環境をPRして都会にはない飯田のイメージを作っていくことも大切だと思う。

【石神委員】

- ・飯田の田舎イメージのコンセプトは「粋」が良いと思う。地球規模の環境問題は温暖化を筆頭に今後さらに大きな問題になってくる。そういう中で、飯田市の環境意識の高さを発信し、それに呼応した移住者を誘導する環境移住という考えもある。また、自給できるエネルギー（バイオマス、水力）で脱炭素を打ち出していくことも効果的と思う。

【福岡委員】

- ・石神委員に有識者という立場で教えていただきたいが、将来の人口減少が進む中で、コンパクトシティを推奨していくという選択肢があると思うが、石神委員はどう考えるか。

【石神委員】

- ・大きな方向性として集中と分散と言えば、今後の社会は分散型だが、エネルギーで言えばコンパクト化が進むことが考えられ、分散かつコンパクトという両方をバランスよく構築することが重要と考える。飯田の場合で言えば、20地区それぞれも環境資源を活かした独自のエネルギーモデルを創出することが可能であり魅力であると思う。